

令和6年度 嶺北特別支援学校 学校関係者評価書

(問)

・学校評価書の成果と課題は適切かどうか。

・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策は適切かどうか。

(評価者)

・特定非営利活動法人 ピアファーム

・(株)ネクスタス ネクステクノ

・福井県嶺北親の会

・福井県立嶺北特別支援学校

理事長

事業所長

会長

PTA会長

林 博文 氏

足田 耕二 氏

北村 春樹 氏

藤田 敬介 氏

(意見)

1. 学校業務改善のための取組

・教育現場も人手不足だと思うので業務削減できるところは思い切って削減するべき。例えば、福祉との連携の部分で、新規の放課後デイサービス事業所が1年に5～10所開所している。まだしばらくこの状況は続くだろう。その情報共有については、事業所側の我々が発信するのでネットやアプリに任せると良い。また、事業所の保護者職員見学等の連絡はアプリやメールで行えば良い時代。保護者は現地集合、現地解散。時間帯だけ知らせておき、対応は事業所スタッフに任せれば良い。

3. 4. 5. 6. 教育課程、学習支援

・以前は高等部卒業後、まとまって複数が同じ事業所に就労という時代があったが、今は事業所が増え、お子さんの障がいの状態は多様で進路に関する学校のご苦労は計り知れない。

・小学部高学年で体力向上を目指すことは良い取組。自ら身体を動かす意欲を育てるためには「楽しい」ことが必須。「身体を動かす」ために「スポーツに取り組む」など視点を変えてみるのも良い。

7 自立支援

・就労に求められる資質や技能の向上、身の回りの事に対する自立はもちろん大切だが、人生楽しみを持って過ごすことを身につけて欲しい。余暇を楽しく過ごすことを見つけられると良い。

8 健康・安全

・「災害時」の対応は大切だが、「避難時」にどう対応するか備えておくことが大切。個人用の「非常持ち出し袋」を準備していることは評価する。避難の際に停電かもしれないし断水かもしれない。寄宿舍では真っ暗な中で移動しなければならないこともあるかもしれない。いろんなことを想定しておくとうい。

・最近、災害では大雪もある。大雪時の対応システムの構築が必要。

9 生徒支援

・最近SNSのトラブルに巻き込まれて性被害を受ける案件が多々ある。小学部からネットリテラシーについて指導していく必要がある。

・不登校児がいたらアウトリーチ支援を活用して欲しい。坂井市とあわら市で実施している。学校の教員は多忙だと思う。行政経由で福祉が学校方針に基づいて自宅を訪問する。

・地域では、昼夜逆転の生活スタイルと貧困が大きな問題となっており、高等学校卒業者の福祉就労が増加している。

10 進路支援

・2025年から就労選択支援制度が始まる。福祉側も初めてのことなので勉強はこれからである。保護者対応のため教育もアップデートしていく必要があると思う。教育と「合同勉強会」のような形で共に学習していけると良い。

・新規に開所する事業所等の見学は保護者に現地集合してもらうなど簡素化し、対応も事業所に任せると業務を簡素化すると良い。

11 保護者との連携

・PTA研修で企画した親の会との交流の時間がゆったりと取れると良い。平日開催では時間を取るのが難しいのかもしれない。きっかけ作りにはなったが、じっくりと話ができれば良かった。

【学校関係者評価を踏まえた今後について】

学校関係者からは、「学校業務改善のための取組」や、「児童生徒一人一人の発達段階や特性、思いに応じた丁寧な支援」、「児童生徒が安心して安全で豊かな学校生活を送るための環境作り」について高い評価が得られた。また、教育と福祉の連携方法について、時代に沿った方法を紹介いただいた。いただいた御意見や課題については、管理職を中心に学部学年や各校務部で検討し次年度の教育目標の設定及び教育実践に生かしていく。